

米中対立激化 破局招く恐れ



米中対立の深刻化に憂慮を示すなど世界情勢についての意見を述べるマハティール元首相(京都市左京区・京都大稲盛財団記念館)

マハティール元首相 京大で講演 安保理改革など訴え

マレーシアのマハティール元首相(99)が26日、京都市左京区の京都大で「窮地に立つアジアと世界 混乱の時代に秩序を再考する」のテーマで講演した。

米国と中国の対立に憂慮を示し、介入に動くべき国連安全保障理事会の改革や、

国民が適切なリーダーを選ぶ民主主義の努力が必要と訴えた。

マハティールさんは1981年から22年間、首相を務めた。90歳を超えた20

18年から20年にも再び首相に就き、強い指導力とカリスマ性で知られた。日本人の勤勉性を見習う「ルックイースト(東方)政策」を推進し、来日100回を超える親日家としても知られる。

講演は京大東南アジア地域研究研究所が企画。約150人が参加した。マハティールさんは中国と米国の両大国による対立の激化が、世界的に分断を生じさせていると指摘。広島と長

崎の原爆投下による被害に触れ、共に核保有国である両国の対立によって「不安定な状況が何らかのきっかけを生み『世界の終わり』の始まりとなりかねない」と、核戦争への強い懸念を表明した。

イスラエルとパレスチナの紛争を引き合いに、常任理事国が拒否権を持ち紛争解決へ手を打てない国連安保理の改革の必要性を強調。「理性を欠く態度の指導者」が世界の混乱に拍車をかけているとして、適切なリーダーを見極める国民の努力も求めた。(鈴木雅人)